

鎌倉市ごみ処理基本計画中間見直し（素案）	意見等の概要	考え方・対応
<p>〇 前提条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスエネルギー回収施設を見直すという鎌倉市の方針を支持しています。</li> </ul>	<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマスエネルギー施設を見直すという鎌倉市の方針を支持しています。</li> </ul>	<p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス施設を見直すという鎌倉市の方針を支持しています。</li> </ul>	<p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長の進める方策に賛同します。市民、事業者、滞在者および行政が一体となったゴミに対する認識を共通化させて鎌倉市が設備に頼る事のない、モデル都市となるような市制運営をお願いいたします。</li> </ul>	<p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政状況が厳しいなか新たな箱物を建設し、次世代につけを残すべきではないと思います。技術的な裏付けに疑問がある施設建設に巨額を投資するより、ライフスタイルを見直すことで課題解決ができるのであればその方法を選択し、市民が一丸となって取り組むべきなので素案に賛成します。総務省が発表した「バイオマスの利活用に関する政策評価」では期待された効果が発揮されていないとあります。建設費に加え、メンテナンス費用も必要です。メンテナンス費用は未知数で、市の財政を圧迫することが想像できます。投入ごみに異物が混入すると故障、破損の原因となるため、徹底した分別が必要となります。住宅に近接した場所での建設は安全面・環境面・景観面等の問題が生じると考えています。</li> </ul>	<p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の視点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設や体制整備といった一時的な経費だけではなく、継続して発生する費用を含めて分析し、トータルコストを少なく抑える手段を選択すべきです。温室効果ガスの発生を抑えることは大事ですが、発生するごみの量を減らすこと、処理量を減らすことが重要です。施設の安定稼働のために一定量の膨大なごみ排出が継続して必要となるバイオ施設は論理破綻があり、問題です。市長が提案する継続してごみの排出を減らし続ける努力を重ねていくプランであれば、予算を低減させながら同時に温暖化防止に寄与し、市内の衛生環境改善に貢献できます。次世代に受け渡す理想の鎌倉の未来だと考えます。広域連携を考慮する際、状況が変化します、連携相手の意向も様々な変化があります。施設整備を決定し実行に移してしまうと、将来の広域連携が必要になる場合ハードウェアによる対応を図ると未来も決まってしまうですが、ソフトウェアの対応であれば柔軟に変化させる余地が残ります。状況が流動的な現代において、今回はソフトウェアで対応することが無難だと考えます。いつ危機的 사고を迎えるかわからないバイオ施設を抱えるギャンブルに打ってでる必要はないと思います。</li> </ul>	<p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ゴミ処理施設は作らず、減量化で対応する案に賛成です。安全性に不安があり、ランニングコストの掛かりそうな生ゴミ処理施設よりも福祉、医療、教育などを優先して税金を投入していただきたいと思います。</li> </ul>	

<p>・一部の議会筋が未だにバイオマス施設に固執・拘泥しているのは理解できません。将来的にはそのような施策を検討することは必要、まさに「今後も最新の技術動向などの情報収集に努めるとともに調査を進める（P34）」ことは必要ですが、まずは5年後に向けて市、家庭、事業所が一丸となって削減に取り組むべきです。</p>	<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p> <p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p>
<p>・概ねこの中間見直しには賛成です。山崎バイオマスエネルギー回収施設の建設に反対の理由は、①建設費約65億円、30年間の運用コストが約610億円と莫大なものです。②総務省の発表では「国が2008年までの6年間に実施した214のバイオマス事業で、効果が見られたものが全くなかった」として、農林水産省など関係省庁に改善勧告しました。③技術的に不安が残るものであること。東日本大震災以後、市民の行政課題の優先順位が変わってきていると思います。これから数年の間は防災対策に予算を割り当て、その間にじっくりとごみ問題の議論や検討してみたいかがでしょうか。</p>	<p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p> <p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p> <p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の視点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p>
<p>・市長がマニフェストで山崎バイオマスエネルギー施設の見直しを掲げ当選し新方針を打ち出したのだから、当然新しい方針に従い、市民も協力していきます。(他、同意見9件)</p>	<p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
<p>・素案を支持します。理由は、総務省の政策評価で、①バイオマス関連事業で効果が現れているものは16.4%で、これらについても期待される効果が出ているものは皆無、②バイオマスタウン構想に掲げる取組のうち、構想通りに実施されているものは277項目(35.3%)にとどまり、目標の達成度を測るバイオマス利用率の変化について、すべてのバイオマス原料を把握しているのは90市町村中15市町村にすぎない。③バイオマス関連施設については、CO2削減効果の全ての試算項目において効果が発現しているものは77施設中わずか8施設(10.4%)という結果です。前市長が進めようとしていた「バイオマス事業」を見直すとして、松尾市長が圧倒的な票数で選ばれたことは重い事実です。総務省評価を見れば、市長のマニフェストには、先見の明があったと高く評価されるべきです。現市長の方針に反対する市議会議員は、多数の市民の民意に反することになります。</p>	
<p>・施設を作るよりごみを減らす方が先だと思います。その線に沿った計画に賛成です。</p>	
<p>・素案について以下の通り賛成します。バイオマスは莫大な予算を伴い、税金の無駄遣いにならないか疑問です。微量とはいえ、有毒ガスが発生し、市民の健康を害するおそれがあります。「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に向けた「環境の保全の重要性」など、新たな見地も含めた検討を行う今回の見直し案に賛成です。</p>	
<p>・バイオマスエネルギー回収施設を見直すという鎌倉市の方針を支持しています。</p>	
<p>・基本計画見直しに賛成します。ごみの減量化することにより、生ごみ処理施設のような箱物は不要です。税を節約してください。ごみを減らすことに協力したいと思います。</p>	

<p>・基本計画見直し案に賛成します。減量化する事により、箱物を建てないようにして、税金を節約してください。ごみを減らすことには協力したいと思います。</p>	<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p>
<p>・鎌倉はこれまでリサイクルに力を入れてきましたが、ごみを減らすことはしていないので、見直しを進めてください。</p> <p>・市長の案に同意します。ごみ収集車にリデュース・リユース・リサイクルとある事を再度考えてみてください。飽食の時代だからこそ、食べたあとにまで責任がもてるように、例えば家庭用生ごみ処理機の助成制度を周知できるよう機会を増やす努力をしていただきたいと思います。生ごみ処理施設建設よりも、子供たち、障害者やその家族等、福祉全般にお金を使うべきで、使い方を見直すべきです。</p>	<p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p> <p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p> <p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p>
<p>・莫大なお金を使って、生ごみ処理施設を建設するより、もっと他にお金を使わなければならないことがたくさんあります。高齢者が多くなることは目前です。ひとりひとりが生ごみをなるべく出さないよう心がけ、考えなければいけないと思います。市長の案に賛成です。</p>	<p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の視点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p>
<p>・素案はごみ減量・資源化の資料、統計がわかりやすいものでした。</p>	<p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
<p>・ゴミ処理に関して、ようやく実効性のあるプランが出て来たと思います。生ゴミ処理施設はこの規模での一般生ゴミを対象とした稼働実績が全くなく、実稼働性も安全性も疑わしいのに10年間で200億円の費用がかかるといわれています。震災の原発を考えれば、巨額の費用を投じて、安全性が疑わしい施設を作るのは絶対やめるべきです。素案の通り、粛々とゴミを減らせば、生ゴミ処理施設は必要ないです。なぜ今まで減量化に取り組まず、次世代に大きなツケを残すようなことばかりしたのかたいへん疑問に思っていました。</p>	
<p>・各自で出したごみは、各自で処理する。そういう意識の徹底ができればよいと思います。市長が言っているCradle to Cradleなどの考え方が、この基本計画の上位に位置づけられて、市政に精通すると、計画を実施していくための大きなエンジンになると思いました。</p>	
<p>・Do→Check→Action→Planの循環型のごみ事業を進めていく考え方は理にかなっています。この素案を実行してください。</p>	
<p>・負の遺産を次世代に残さないために、今、ゴミの減量化に市を挙げて取り組むべきだと思う。ゴミの減量は無理だから処理施設が必要という考えでは、電気が必要だから原発が必要といていた状況と同じです。</p>	
<p>・市長選のマニフェストでは、生ごみバイオを見直し、としていたと記憶しています。市民にもっと生ごみ処理機を普及させる努力をもっとすべきです。がんばってごみを減らす計画を進めて欲しいと思います。</p>	

	<p>・バイオマス事業について反対です。新しい技術のため総務省としても効果に対して認めていません。</p> <p>①新しい技術のため総務省としても効果に対して認めていません。</p> <p>②費用対効果を考えると、先般の震災を受けて大幅に見直さなければならない旧鎌倉沿岸エリアの防災対策を抜本的に見直し、実施するための予算に当てるべきです。</p> <p>③ごみ削減が目的であるのなら、もっと安価にできる代替案があります。</p> <p>バイオマス事業についてかなり以前より導入検討がなされていましたが、現時点では様々な実証実験や導入結果がでており、鎌倉市の課題を解決する夢の技術という状況ではないと考えています。3月11日の震災を受けて、行政課題の優先順位を見直すことが必要です。全体状況が大きく変化したことを受け、合理的な判断が必要だと思います。</p> <p>それでもバイオマス事業を推進するのであれば、費用対効果と全体の優先順位の合理性を科学的・経済的にも説明した上で合意形成する必要があります。</p> <p>・大前提として、鎌倉市民は山崎バイオマス施設の見直しを選挙公約に掲げた市長を選んだわけで、多くの市民が従来のごみ処理計画に対してNOを表明した結果です。いまだ施設建設をとなえる議員が多いとのことですが、市民の意思をどのように捉えているのか理解できません。私は施設建設賛成という意味は全くありません。</p> <p>・バイオマス施設建設には強く反対します。環境負荷を減じるための施設とは思えません。</p> <p>・バイオマス処理の見直しに賛成します。</p> <p>・バイオマスエネルギー回収施設の建設中止の判断は賢い選択だと考えています。理由は、市長の言う「稼働時のトラブルへの経験や蓄積がない」に尽きます。一般論として、生産設備（いわゆる動脈系の設備）は、仕様が明確で受け入れ検査された部品や材料を処理するので、高機能・高効率を追求できますが、静脈系の設備は、かなり想定と外れた物が投入されてもそれなりに性能を維持する頑強性（ロバスト性）が求められます。従って、モデルプラントでの多様な条件での実証試験を経ても、実プラントでトラブルが続き、何年も定格性能が出ないという例もあり、鎌倉市の現在のごみ処理能力および財政の状況を鑑みると、実績のある枯れた技術の施設を選ぶべきだと考えます。</p> <p>・松尾市長が公約としてごみ処理施設建設見直しを掲げており、それに賛成したから、松尾市長が誕生しました。議会の反対は民意に反するようにも感じられます。安心、安全といわれてきた原子力が安全ではなかったように、まだ情報も少なく結果がはっきり見えないバイオマス事業に多額の資金を投入することには不安を感じます。</p>	<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p> <p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p> <p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p> <p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p> <p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の観点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p> <p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
--	--	---

<p>・松尾市長が公約としてごみ処理施設建設見直しを掲げており、それに賛成したから、松尾市長が誕生しました。議会の反対は民意に反するようにも感じられます。安心、安全といわれてきた原子力が安全ではなかったように、まだ情報も少なく結果がはっきり見えないバイオマス事業に多額の資金を投入することには不安を感じます。</p> <p>・バイオマスゴミ処理場を作るのに数十億円の費用がかかるうえ、さらに運転にも大量の電力を消費し、維持費にも億単位の費用がかかることは不経済であり、省電力の時代に逆行しています。処理性能も実績が乏しく、一部、性能評価が悪いという評判も聞きます。予定した処理能力が出なかった場合は、誰が責任を取るのでしょうか。市民へのしわ寄せは困ります。</p>	<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p> <p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p> <p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p> <p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p>
<p>・総務省が効果なしとしているバイオ施設建設はしないでもらいたいです。下水汚泥から高濃度の放射性物資が県内からも見つかったらしいですがバイオ施設の安全性はどうか、ガス爆発でもしたら周囲に飛散しないのか、安全性が実証されていない未知数の技術に今、飛びつく必然性はないと思います。</p>	<p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の視点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p>
<p>・バイオ処理施設建設は莫大なコストと維持管理がかかるので造らない方向に賛成です。技術的にも事故が多く、安全性の担保もまだなされていないと考えています。今回の原発事故で下水汚泥にも放射性物質が混入しているという報告がありますが、バイオ処理施設は下水汚泥と生ごみを一緒に処理するのでその点でも危惧されます。</p>	<p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
<p>・バイオマス事業については建設中止の意見を提出します。鎌倉の住民の意識の高さを信じ、ごみ削減の努力をすれば施設はいらないと考えます。食べ残しをせず、水切りをしっかりとやるなどの対策を周知する努力をすれば、高額な施設を作らずにすむのではないのでしょうか。</p>	
<p>・バイオマスはやめた方がいいと思います。実績のない機械は壊れると大変で、メンテナンスにも膨大なお金がかかります。賛成議員は失敗しても責任はとらないでしょう。</p>	
<p>・総務省の結果をみれば明らかなように、十分な効果をあげている施設はなく、高額な投資をして実施するには時期尚早と思われます。東日本大震災後の補助を考えると十分な成果の得られない施設に補助金が付く可能性は少ないと考えます。(他、同意見9件)</p>	
<p>・大型なバイオシステムは地域エゴなど過去の経緯からも解決が難しいので小型化の方が理解しやすいです。</p>	
<p>・大型なバイオシステムは地域エゴなど過去の経緯からも解決が難しいので小型化の方が理解しやすいです。</p> <p>・生ごみ資源化施設の建設は多額の建設費がかかる上、効率が悪く、多くの企業が取り組んでいるにもかかわらず現実化していないのが現状のようです。</p>	

	<p>・大がかりな施設に頼るシステムを作ってしまうと問題の原因が大きくなるだけで根本的な解決から遠のくではないかと思います。</p>	<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p> <p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p>
	<p>・鎌倉市民の総意であればバイオマス施設をスタートせざるを得ませんが、一部の人間だけの判断で行うのはどうかと思います。私は建設に絶対に反対です。個人個人のごみを減らす努力を行ってからの再考を望みます。</p>	<p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p>
	<p>・バイオマスのように総務省が否定する程の事業を鎌倉市が今すべきではないと思います。将来技術が向上し、有効に働くような時がくればその時決めれば良いことです。</p>	<p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p>
	<p>・効果が不透明なハコ物行政には断固として反対です。取り組み次第でまだまだごみの減量・資源化は可能だと思います。鎌倉市民の意識を信じた計画にしてください。</p>	<p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の視点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p>
	<p>・公正な立場にある第三者でも効果のほどに疑問符がついてバイオマス施設に固執する理由が不明です。市長の提案で努力をしてみて、問題が解決しなければ次の方法を探るといのが社会情勢からしてもノーマルな考え方だと思います。</p>	<p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
	<p>・バイオマス施設の建設を望む議員が多くいるようですが、もっと慎重に考えていただきたいと思います。全国のバイオ施設の多くがうまくエネルギーがとれていませんし、鎌倉が計画していた施設は前例がなく、生活環境審議会でもコストがかかるので市民に説明すべき、と言われているのにしていません。他の都市部の市で導入・成功をしてから導入しても遅くないと思います。財政の厳しい中危険な賭けはやめたほうがよいと思います。</p>	
	<p>・地球温暖化の中、ごみを減らすことが大切です。バイオマスに対する総務省の評価についての新聞記事を見て厳しいと思いました。市民が一丸となってごみを減らせば良く、事業者も協力してくれると思います。</p>	
	<p>・色々なものを資源化することは良いことで、ごみを減らすこと、公約どおりにバイオマス施設を中止にしたことは大事なことです。</p>	
	<p>・今泉の焼却施設が2年後に停止するにあたり、山崎浄化センターにバイオマス建設が再度建設する話を噂で聞き、市長が撤回したのになぜ話が舞い戻ったのですか。今の浄化施設建設の時にも振動や騒音でとても苦しい思いをしました。先日の地震でも家の中の物が倒れたり、トイレや風呂の水があふれたり地盤の緩さを感じました。近隣住民としては山崎浄化センターにバイオマス施設の建設は絶対に反対です。技術的、安全性が問われるだけに反対です。高い建設物やガス釜がいくつも設置され、天災などによる事故は不安です。病院や三菱電機ホームセンター、武</p>	

	<p>田薬品等の車がとて多くなっている中、これ以上車が多くなるとは困ります。</p>	<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p>
	<p>・山崎浄化センターにバイオマス施設ができること絶対に反対です。交通量が多い中、生護美の車50台が出入すること、田んぼの埋建地のため地盤が緩いので地震などの災害時のことで心配があります。現在の浄化センターでも災害があった場合心配なのに、複合施設を作ることにより全てが破壊されるのではないかと心配です。山崎住民は今の浄化センターがあるため、鎌倉市に十分に貢献しています。これ以上施設をここに作らないでください。</p>	<p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p> <p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p>
	<p>・バイオマス施設建設予定地まで何メートルも離れていないので安全性が問われるので大反対です。大型トラックが通ると地盤が緩いので地震のように揺れるため、さらにトラックの出入りが増えることがとても困ります。</p>	<p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p> <p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の視点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p>
	<p>・バイオマス施設建設予定地は人家が近すぎることで、地盤がとてもゆるいこと、爆発物（ガス）であることから危険です。現行の浄化槽の臭い、焼却の臭い、さらに生護美運搬車、バイオマスの臭いなどもうたくさんです。</p>	<p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
	<p>・バイオマス施設建設に反対です。地盤がものすごくゆるいため大きな物を作るには向いていません。人家が近すぎます。天災があったときのことが心配です。避難場所に必要です。</p>	
	<p>・バイオで電力を作り出せる話もあり、現状の原発問題等がある時にもっと検討の必要があると思います。</p>	
	<p>・素案にあるとおり、新たな施設建設をせずにごみを減量、資源化する方策に賛成です。バイオマス施設建設は高額で、建設後も費用がかかり、財政を圧迫させるので断固反対です。</p>	
	<p>・新しいごみ処理施設建設には反対です。</p>	
	<p>・分別を徹底しごみを減らすことができるのであれば今すぐに多種多様な方法で試行錯誤を行ってほしいと思います。</p>	

<p>・多数の反対派議員がいる中で今回の英断をした市長とその主旨に従い当該素案を作成された職員の皆さんに感謝します。頑張ってください。</p>		<p>市民、事業者、行政の連携・協働による3Rを推進していくための適切な役割分担、組織化を進めていきます。</p> <p>ライフスタイルや事業活動を見直しするための積極的な取り組みを進めていくために、環境教育・普及啓発活動などを通じて今一度、環境問題に目を向けてもらうことに積極的に取り組んでいく体制を整備していきます。</p>
<p>・津波対策を最優先するべきです。総務省が効果ゼロと改善命令がでているものを財政が逼迫している鎌倉市でやる必要が今あるのでしょうか？</p>		<p>3Rの推進などにより、廃棄物の発生抑制に努めるとともに、環境への負荷を極力抑えた安全・安心な廃棄物の適正処理に努めていきます。</p>
<p>・ごみを減らすことが大事で、大金を使って設備を造る必要はありません。</p>		<p>効率的な処理体制の確立を目指していくために、廃棄物処理コストを多角的に分析するとともに、民間事業者を積極的に活用することにより、財政負担の軽減をはかっていきます。</p>
<p>・ごみ問題を解決するには、市民や事業者が意識を高めていく方策と取らないと根本的な解決にならない。市民の税金を預かる行政が安易に箱ものを増やす計画はやめてほしい。</p>		<p>市民の利便性の向上と公平性の確保のために、廃棄物処理に対応しやすい環境整備を進めていきます。方策のひとつとしての家庭系ごみの有料化については、公平化の視点から、市民への説明を十分に行いながら進めていきます。</p>
<p>・まずごみを減らす努力をすべきであり、その努力をしてから施設を考えた方が良いでしょう。</p>		<p>以上の基本方針を確実に実行性のある取組とするため、今後も第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画・ごみ処理基本計画中間見直し(素案)で掲げた施策ひとつひとつの課題を着実に克服し、山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設を建設せずに、「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現を目指していきます。</p>
<p>・素案はわかりにくいのですが、実績も無いものに対して5000万円もつぎ込むのは無謀すぎると思うので施設の建設には反対です。今の鎌倉市は多額の借金を抱えているというのにこれ以上私たちの払わなければならない税金を増やさないでいただけますか。もっとよく考えて欲しいです。</p>		
<p>・長い時間かけて計画してきた生ごみバイオマス施設を中止することは残念です。電力が必要な生ごみ処理機をすすめるのは時代錯誤、コンポストは用地がないと無理です。生ごみを燃やさず資源化するバイオマス施設をしっかりと作ってください。</p>		<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p>
<p>・素案は絵に描いた餅で削減することはなかなか難しいと思います。</p>		<p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
<p>・見直し案には不確定要素が多すぎます。見直し案に示されている個々の項目については必ずしも反対するものではありませんが、確実に今泉の焼却を停止させ、名越の焼却量を削減できるだけのごみの減量ができるとは思えません。家庭用生ごみ処理機を今以上に普及させることは高齢化率の上昇や節電の必要性などを考えると現状以上の普及は難しいと考えます。中小規模事業者の生ごみ資源化を市の事業として行うというのであれば、生ごみ資源化施設をつくったほうがよほど確実だと思います。布団のリサイクルは以前も予定されていたのが事業者が撤退しできなくなった経過があります。また畳や木質廃材は事業者責任で処理してもらおうべきもので、市が資源化することは本末転倒だと思います。</p>		
<p>・計画全体に曖昧な点が多く、実現性に疑問があります。</p>		
<p>・5年後にごみが減るという確実さがありません。具体的な動きを予定しておかなければ、最終的には計画の達成はできないと思います。</p>		



	<p>・今泉クリーンセンターが停止となり、名越クリーンセンターは処理を継続していくとありますが、いくら私たちが努力をしてもごみが無くなることはありません。近年、バイオマス計画が持ち上がっていることを聞き大変賛同していましたが、今回の素案には一言も触れられていません。市長自ら町内会との話し合いを行われていますがこのことは全く述べられていません。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p>
	<p>・ごみ処理基本計画見直し素案に反対します。今まで個人としてごみの減量に取り組んで、ぎりぎりのところまでやってきました。これを市内全世帯に実施させる事は不可能です。ある程度までは、市の熱意をもった PR で出来るでしょうが、それ以上は無理です。基本計画案の数値では数字の遊びでしかありません。今まで進めてきたバイオマスリサイクルセンターがだめなのかの説明が全然足りません。山崎で汚泥を燃やしている事の説明もなく、汚泥を生ごみと混合でメタンガスを発生させる利点の説明もありません。これでは市民がバイオマスエネルギーセンターについて十分に知ることが出来ません。バイオマスについて、市長は他市に例がないと消極的な考えで取り組もうとしませんが、今の技術を信用していないとしか思えません。異物の混入も前段階で防げる技術はあります。バイオマスエネルギーは、有効利用できる施設です。もっと前向きに、若者らしいチャレンジ精神で取り組んで下さい。</p>	<p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<p>・素案では「今泉クリーンセンターについては平成27年度を目途に焼却を停止する」と書かれていますが、それに代わる具体的な施策がありません。「努める」「積極的に取り組む」「目指す」「検討する」と目標が掲げられているだけという印象です。</p>	
	<p>・今年度予算は、生ごみ資源化施設をつくる方向での修正がされたと聞いています。今回の素案が「山崎のバイオ施設に運び、電気を作る」案を否定するに値する案とは思えません。</p>	
	<p>・見直し素案に反対します。今まさにエネルギー循環が課題だと思います。今泉台に40年来住んでいますが、いろいろな計画があり、流れ、反対・・・とずっと来ています。今度こそ、危険を身近に考え対処してほしいです。分別日本一の鎌倉市民に生ごみの分別はたいへんかもしれませんが、できます。</p>	
	<p>・昨年9月議会では「バイオマスエネルギー回収施設整備事業の積極的推進を求めることに関する決議」というものが市議会で可決された。「市議会だより」で知りました。その後市長が代替案の検討を始めたように報告されましたが、結果がこの素案であるとしたら、代替案にはなっていないと思います。23年度予算には「バイオマスエネルギー回収施設整備事業の促進」として経費が計上されているのに計画に盛り込まれていないのは納得できません。有効で実現性のある計画見直しをおこなっていただけるよう強く要望いたします。</p>	
	<p>・なぜ、生ごみバイオマス施設の計画を中止するのでしょうか。生ごみが資源化できるのなら、そうしてほしいです。事業ごみだけでなく家庭ごみも一緒にしてほしい。その為の分別ならがんばります。今回の見直し案には反対です。</p>	

	<p>・鎌倉で資源化する施設を作ればよいと思います。この見直し素案は実現できるか定かではなく完成度が低いので反対です。</p>	
	<p>・今泉クリーンセンターの予定どおりの停止を願っていますが、新しい施設建設せずに減量化のみでは無理だと思います。素案の見直しをお願いします。</p>	
	<p>・ごみ処理基本計画を見直すことに反対です。生ごみ資源化施設を作らずに、ごみを減量し、今泉の焼却炉を止め、名越の焼却量を減らすことは実現不可能だと思います。施設をつくらない理由「同じような種類・規模の施設が全国的に例がないこと」をあげていますが、あまりの消極的で逃げ腰だと思います。韓国や、日本のいくつかの自治体でも、ごみのバイオガス化が行われ成果を上げています。鎌倉も全国に先駆けて資源化施設による、生ごみのエネルギー化に取り組んでほしいと思います。議員の多くが賛成する施設を一方的に取りやめることは、議員を選挙した市民の意向を無視した暴挙であり、許すことができません。再度、「見直しの見直し」を望みます。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p> <p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<p>・協力で減量できるのならばすでにできているはずで、ごみを持ち込まない啓発と、これまでの計画通り、生ごみと下水汚泥を混合処理してバイオガスを発生させ発電する施設を建設する計画に戻すべきと考えます。今の電力不足にも対応できるものと思います。今回の計画変更には反対です。</p>	
	<p>・この計画では3割の人が生ごみの処理をすればいいことになっています。公平性を重んじる公共サービスが、一部の人に多大な負担をかけ、多くの人が行うことを前提としない計画には賛成できません。議会の多数での判断を市長は尊重し、生ごみ資源化施設を早期に作ってほしいと思います。議会の決定を無視した、実現性の危ういごみ減量をあてこんだごみ処理基本計画の変更を行うことには反対です。</p>	
	<p>・中小企業向けの削減計画なども、27年度に4,370tという大きな実績を出す目標を出すのが、家庭から出るより多い削減効果を狙うなら、市長の今任期中にはっきり実現できるように目標を立てるべきです。最初から、実現できないような計画で、長年検討して辿り着いた山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設整備計画を白紙撤回するのは旨くいかなかった昔に逆戻りするのと同じです。これではいつまでも焼却量は減らず、今泉焼却炉の停止など出来る見通しがたたないと思います。後戻りして、やっぱりダメだったでは済まされません。市として、ごみ問題を市民と企業だけに、負担を丸投げし、自分の任期中に責任が取れないような市長の見直し案には反対です。</p>	
	<p>・見直し案には反対です。今泉焼却炉が老朽化して使用不可能になってからでは遅すぎます。生ごみ資源化施設を作ることは賛成です。今まで費やしてきた年月と関係各位の努力がもったいないと思います。</p>	
	<p>・減量化対策に疑問を感じます。有料化で3,700t、分別で2,500t。生ごみを収集しないことで7,100t。布団等新たな処理は1,000tだけです。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民負担増大を図る方向の見直し案には反対します。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツを訪問しましたが、どの種のごみも発生を極力抑えたシステムが行き渡った社会が出来上がっていると感じました。ドイツと同様な意識を日本でも鎌倉でもごみ問題処理が可能との思いを強くしています。目の前からごみが消えればいいという安易な考えは賛成できませんので今回の案には反対です。</li> </ul>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみを削減する努力は当然必要ですが、これのみに期待している市の案には納得できません。</li> </ul>	<p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26, 27 年度の削減量の推計値が大きいため、平成 25 年度終了時点で予測ができません。実現度が低いときのバックアップ体制を防備的に持つべきだと考えます。当初検討されていた山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の試験的設備を平成 26 年 4 月稼働で準備することを要望します。施設建設期間と試験稼働を勘案すると平成 25 年 4 月には建設開始が必要ですが、まだ 2 年間あるので、より良い技術の知見を集めて施設の高度化を図ることができるのではないのでしょうか。試験的でも実用に供し得る設備の着工を何時でも図れるように準備を進めていただくことを要望します。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10 数年前に電動式の生ごみ処理機を購入しましたが、臭いがあり、お茶がらや生物とはいえない物のみしか使用できず、また電気代もバカになりませんでした。分別は鎌倉市民は慣れているので生ごみ分別もできると思われれます。生ごみ資源化施設を是非作ってください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガス化施設をやめる理由に同規模の事例がないということを挙げていますが、ガス化施設は安全に運行されていると思います</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみ資源化施設が中止になった事を非常に残念に思っています。箱物を作らずにゴミが減るのであれば素晴らしいことだと思いますが、今までも市は減らす努力を怠ってきたわけではないので思い切った変更が必要です。是非、生ごみ資源化施設の検討を継続していただきたいです。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみを減らすために家庭用生ごみ処理機を購入し、市に協力してきましたが、原発事故から電気の使用を抑えるため電動型の処理機を使うことをやめました。マンションに大型ごみ処理機を導入するには維持管理や安全対策、電気代等住民の合意を得にくく、ごみ処理を市民に押し付けているようで納得できません。ごみ分別には市民が責任を持ち、市は責任をもって資源化するべきだと思います。生ごみを燃やさずに資源化する施設としてバイオマス資源化施設に期待していたので残念です。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみを減らすために家庭用生ごみ処理機を購入し、市に協力してきましたが、原発事故から電気の使用を抑えるため電動型の処理機を使うことをやめました。マンションに大型ごみ処理機を導入するには維持管理や安全対策、電気代等住民の合意を得にくく、ごみ処理を市民に押し付けているようで納得できません。ごみ分別には市民が責任を持ち、市は責任をもって資源化すべきだと思います。生ごみを燃やさずに資源化する施設としてバイオマス資源化施設に期待していたので残念です。</li> <li>・生ごみ処理施設を作らない場合でのごみの削減量はあまりに非現実的で達成できるとは思えません。今回の原発事故が起こったなかで電気量をいかに減らすかを考えなくてはならないため、家庭用生ごみ処理機を普及するよりも生ごみ資源化施設で一括処理をしたほうが良いのではないのでしょうか。なぜ、生ごみ処理施設建設中止を打ち出した意味がわかりません。</li> <li>・山崎に当初バイオマス施設が建設されることに不安がありましたが、説明会を通じてこれからは必要な施設で、生ごみ資源化する施設として期待をしていました。電気の使用を抑制しなくてはならない時期に電気を必要とする家庭用生ごみ処理機を推進することには理解ができません。</li> <li>・生ごみ処理はできれば自宅で行いたいのですがマンションでは条件的に難しいので素案に反対です。生ごみを分別するので山崎で資源化をしてもらいたいと思います。</li> <li>・生ごみ資源化施設が計画の柱に位置付けられていません。同じような施設が全国に例がないとのことですが、国際的には大変多くの事例があります。生ごみ資源化施設建設を前提にしない見直し案では、安定したごみ処理ができるとは考えられず賛成できません。</li> <li>・老朽化した焼却炉の停止と焼却量の削減が保証されていません。老朽化した焼却施設を停止することが鎌倉のごみ問題のもっとも大きな課題です。確実に焼却ごみを削減できる生ごみ資源化施設を建設せず、見直し案の事業では確実性に欠けると思われます。現在の焼却施設を早晚停止させなくてはならないことを考えると今から生ごみ資源化施設を含む確実な方法でごみ削減に取り組むべきです。</li> <li>・バイオ施設計画を推進してください。技術的には確立したものです。新たな施設建設というよりは、老朽化している焼却炉の代替施設です。</li> <li>・見直し素案はかつての「ごみ半減化運動」と同じであり、平成14年度に既に方針転換しています。市民の努力による減量化には限界があったからこそ、今泉クリーンセンターの焼却炉を再稼働し、3町内会との覚書を交わしてきました。覚書にある期間内に素案が実現されるとは思えません。市長が再議書の提出があったにもかかわらず修正可決されたバイオマス処理方式の導入に積極的に取り組んでください。</li> </ul>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p> <p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
--	---	---

	<p>・市民の代表である鎌倉市議会の立法府の意思を行政府である市長、市行政は尊重してください。バイオマス施設への投資は「箱物」ではなく、日進月歩しているごみ処理技術だと思います。新しい時代の「ごみ処理方式」として鎌倉市は他に先じて採用し、我が国が直面する総合的なエネルギー及び環境問題に寄与できるようリーダーになっていただきたいと思います。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p>
	<p>・生ごみは分別し、山崎で資源化してほしいです。</p>	
	<p>・生ごみの処理は何年も前から減らす努力をし、これ以上は無理と思うほど減量してきました。新しい処理施設ができることに期待をしていましたが、計画が白紙となったことに疑問を感じます。今泉の焼却炉を使い続けることは不可能です。早急に本来決まっていた案に戻してください。</p>	
	<p>・生ごみバイオマス施設計画の設立の話聞いた時になんて活気的だろうと期待していたので中止というのはとても残念です。生ごみバイオマス施設を作り、事業系の生ごみを入れてもらえればあちらこちらで別途処理するよりはいいと思います。これからできるものは何でも資源(リサイクル)にするという節約の時代です。</p>	<p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<p>・鎌倉市がごみ問題に正面から真摯に取り組んでいることは理解し、それなりの成果も得られていることもよくわかりますが、削減基本論は理想論で、行政が立ち向かう基本方針を提起する必要があります。</p> <p>バイオガス発電施設への取り組みも全国的に例がないから止めたとか、市民の協力が大事というだけでは責任回避です。これまでの計画は約束として履行する努力をすべきだと思います。</p> <p>全国一の高給の市であるならば、全国一のモデルごみ処理の市になってください。焼却場の代替地がないとは思えません。</p>	
	<p>・今泉焼却炉の停止、名越での焼却量を増やさないためにも山崎でのバイオマスエネルギー回収施設計画に早期に着手し確実に生ごみを減らす方策を実施すべきです。</p>	
	<p>・生ごみバイオマス施設建設計画の中止は納得できません。かける経費が莫大でもかける、かけるべきでない経費は省くという先見の明ある判断をしてください。</p>	
	<p>・鎌倉市のごみ処理の方向性はリサイクル、資源循環型ではあるべきではないでしょうか。家庭用生ごみ処理機や大型生ごみ処理機は資源循環型とは言えないと思います。事業者の生ごみと一緒に処理をするバイオマスエネルギー回収施設の整備は多少経費がかかっても自然を大切にす鎌倉というイメージとして、全国のお手本としてすすめるのがいいと思います。節電がもともとめられている現在、こういった施設は将来を見据えると重要だと思います。</p>	
	<p>・先駆的な生ごみバイオマス施設を現実のものにとらえ、家庭や事業者の生ごみを処理することが平和都市宣言など日本の自治体の先進を担ってきた鎌倉市のあるべき施策だと思います。</p>	

	<p>・なぜ山崎バイオマス施設計画をやめて循環の輪がみえにくい方策に転換したのか納得ができません。生ごみを燃やさず、資源化する施設として大いに期待していたので残念です。</p>	
	<p>・全国に先駆けて総合的なバイオマス計画を実施すべきではないかと思います。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p>
	<p>・今回の震災から今までの生活を見つめ直す動きがすすんでいます。あきらかに資源化できる生ごみ処理施設を作ることを率先して市民の協力を実施することこそ子どもたちによりよい持続可能な未来を残すことにつながるのではないのでしょうか。</p>	<p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<p>・バイオマス施設が有効だと思います。</p>	
	<p>・バイオマス施設の建設見直しはなぜ、どうしてと思いました。今泉焼却炉は住民との約束がありますし、名越焼却炉は老朽化しています。家庭用生ごみ処理機は有効に使われなければ助成金も無駄になります。電力の問題もあります。バイオマス施設を建設し、ごみ問題のない安心して住める鎌倉にしてほしいと思います。</p>	
	<p>・昨今の日本の電力供給状況を鑑みると紙オムツ処理機や電動型生ごみ処理機を普及促進することをごみ処理の基本にすえることに反対です。国に先駆けバイオ施設建設アピールし、牽引約になるのが環境問題で時代を先取りしてきた鎌倉市の役割ではないでしょうか。</p>	
	<p>・この素案はバイオマスエネルギー回収施設を作るシンプルな理解を得やすい構想を捨て、燃やすごみの減量のみを考えた単なる数合わせに過ぎません。達成できなければ今泉焼却炉は毎年多大なメンテナンス費用をかけ、27年度以降も稼働せざる負えなくなるのではないのでしょうか。このような不安定な事業案には反対です。「バイオマス施設」建設に向けた計画を存続すべきです。</p>	
	<p>・5月12日朝日新聞朝刊の社説に脱原発の話として、バイオマス、風力など消費の半分を再生可能エネルギーにするのを目標としているとのこと。いいことは見習って欲しいし、取り組んでもらいたいと思っています。鎌倉市の規模では前例がないとのことですが、最初は前例がないのは当然です。今回の素案に反対します。</p>	
	<p>・脱原発を進めるためには、自然エネルギーへの転換が不可欠で、現時点ではバイオマス発電は発展途上で、たとえ赤字となることがわかっても行政は率先して導入することが必要であり、特に知識人や見識ある市民が多く居住する当市がリーダーシップを発揮することが今回の震災、原子力事故で苦しむ被災者に対する支援でもあると考えます。若輩市長の浅はかな考えで素晴らしい事業を取りやめることは鎌倉市民の恥となるでしょう。ぜひ、建設を推進していただきたいです。</p>	

	<p>・鎌倉市民の意識は全国でもトップレベルです。市の方でも処理施設を考えてほしいと思います。市民から要望が出て市議会でも賛成が得られた山崎のバイオマスの施設の建設は行政の一貫を貫きぜひ推進していただきたいと思います。</p>	
	<p>・生ごみバイオマス施設の計画にとっても期待していました。老朽化した今泉と名越の焼却炉に変わるごみの処理場として、バイオマス施設の計画はとても時代にあったものだと思っていました。特に今回の震災の原発事故を受けて、政府でもバイオマス施設を推進していく方針だと聞いています。代替案は、どれを取っても納得できるものではありません。この素案に反対です。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいので、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p> <p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<p>・生ごみバイオマス施設の計画は、実施の方向でお願いしたいです。庭があり、そこで堆肥化できるようならそれでよいのですが、電気を使っての生ごみ処理は、節電が求められている状況にはあわないと思います。エネルギーを生み出すという発想にしてほしいです。バイオマス施設を切に望みます。</p>	
	<p>・山崎のバイオマスは予算もつき、当然出来るものと期待していました。原発事故で代替エネルギーとしても期待されるバイオマスを是非やってもらいたいです。</p>	
	<p>・市長が公約やマニフェストにこだわって間違った選択をしようとしているのなら考え直してください。鎌倉市民のために正しい選択をしてください。ぜひ、山崎のバイオ施設建設案を進めてください。</p>	
	<p>・脱温暖化のためにも、資源ゴミを徹底的に分別し、焼却するごみを減らせば今泉焼却炉の廃炉が可能であるため、生ゴミを資源化する施策を進めるべきです。脱原発を進めるうえで自然エネルギーによる発電とともに、生ごみをエネルギーとして活用できる生ごみ資源化施設は、現在の日本のエネルギー事情を考えた場合は、早期に建設すべき重点事業です。</p>	
	<p>・今年度予算は生ゴミ資源化施設をつくる方向での修正が出された聞いています。議会の多数の判断を尊重し、早急に、生ゴミ資源化施設を作ってください。</p>	
	<p>・鎌倉市は「バイオマスエネルギー回収施設」について早急に促進する事を要望します。生ゴミの「バイオマスエネルギー」施設建設を喜んでいましたが、市長は計画を中止し 1 万トン以上のゴミ処理を事業者や各家庭で自己処理する方向だと伺いました。</p>	
	<p>・燃やすごみ減量目標が達成できるとは思われません。今泉クリーンセンターの再改修は不可能です。理由としては生ごみ処理機はすでにサチュレートしています。事業系ごみ 4,370t が 27 年度にできるとは思えません。先進的な資源化にチャレンジすべきです。今の市の案は他力本願主義で達成の保証がありません。バイオマスは時代の流れであり、行政としては、先進的取り組みにチャレンジすべきです。</p>	
	<p>・生ごみ処理機の設置場所、維持管理はどうするのでしょうか。住民の賛成は得ら</p>	

	<p>れないと思います。国は自然エネルギーやバイオマス に力をいれていく方針だと聞いています。市民の代理人である議員の賛成多数で決まったバイオマス計画をなぜ進めないのでしょうか。高額とは言っても、国の半分負担があるです。今泉、名越のクリーンセンターが老朽化していることによる維持費がかなりかかると聞いていますので、早く山崎に処理施設を作ってください。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいと、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p>
	<p>・昨年までバイオ利用を推進していたのに、素案には一切触れられていないが何故方向転換したのか、バイオがダメになった理由を示してもらいたいです。高齢者では説明会に行くこともままならないので、広報等できちんと説明をしていただきたいです。</p>	<p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<p>・H23年4月のごみ処理計画素案の地元説明を受けていません。地元町内会とはH25年に今泉クリーンセンターでの焼却をやめる約束があり、この約束を守る計画でなければ困ります。</p>	
	<p>・H23年2月今泉台町内会館での説明会で、市長はバイオをやめると言いながら、住民のやめるなどの意見に「全くやめたわけではない」との発言がありましたが、市議によるとこの素案が通ると生ごみのバイオ処理は全くなくなるとのことでしたが、それは市長が嘘を言ったこととなります。震災で国もエネルギーの見直しを言い出しているのに、国からの1/2の補助費用も活用してバイオに踏み切るべきだと思います。日独交流会で市長に会いましたが、バイオは20年も進んでいるドイツに学ぶべきです。</p>	
	<p>・地球温暖化対策のためにも生ごみを資源として活用するバイオマスエネルギー回収施設を作ることは素晴らしい発想だと思います。生ゴミを処理できないかと、いろいろと試しましたが臭いや虫が発生するなど一般家庭で行うことは難しいと思います。生ごみ処理機で電気を消費したり、生ごみの焼却でCO2を出すのではなく自然界に存在するものを上手に活用しエネルギーにしてほしいです。バイオマスエネルギー施設を作る決断のできるリーダーシップを市長にのぞみます。</p>	
	<p>・この素案で生ごみの「安定処理」ができるとは思えません。この案でバイオマス生ごみ処理施設建設を覆すほどの論理性は認められません。大規模なバイオガス化処理施設の建設を決定した長岡市など、全国で次々と建設されています。この施設がどのように安定しないのか論理的説明を求めます。長岡市の検証では年間2万t生ごみ処理をし、410万kwを発電し、ごみ処理経費は15年間で35億円削減できるとしています。また建設費も44億8千万円で落札されたそうです。バイオマス生ごみ処理施設建設の推進を求めます。</p>	
	<p>・有料化と各家庭の処理機による減量計画ですが、横浜G30を推進し、5年前倒しで目的を達成した私には効果が望めないと思います。事業系ごみの減量と家庭系生ごみのバイオガス化による減量を提案します。</p>	
	<p>・全国で既に51か所もあり、三浦市でも昨年建設されたと聞いています、欧米では常識的なバイオマス施設は安全で効率的です。予算も可決されたのになぜ建設を計画しないのか納得ができません。</p>	



	<p>・全国で既に51か所もあり、三浦市でも昨年建設されたと聞いています、欧米では常識的なバイオマス施設は安全で効率的です。予算も可決されたのになぜ建設を計画しないのか納得ができません。</p> <p>・下水汚泥と生ごみを資源化するバイオマスエネルギー回収施設は燃やすごみの削減と新しいエネルギーを創出できるので資源化する計画に戻すべきです。</p> <p>・生ごみを燃やさずに資源化するバイオマスのバイオガス化施設の計画には大いに期待していました。その計画を議会の多数の賛成に反し市長が中止をされたことに納得できません。バイオマス施設に心配があるならそれに取り組むための予算を立て、可能性を残していただきたいと思います。</p> <p>・原発中止などで自然エネルギーの比重が多くなることを望みます。バイオマスなども一つの方法ではないでしょうか。</p> <p>・バイオマス施設の計画に期待していたが中止は残念に思っています。</p> <p>・リサイクルにも膨大な経費がかかっていることを市民にぜひ知らせるべきです。リサイクル日本一でもごみの総排出量が多ければ自慢になりません。個人的には生ごみの資源化施設を考えるべきだと思います。ごみ処理施設は利用されない無用の箱モノとは違うのではないのでしょうか。新たなエネルギーの創出が求められるこの時期、ぜひ見直しの見直しを求めます。</p> <p>・日頃から廃棄物の少ない料理法を心がけていますので、捨てるものは極少ですが、生ごみは毎日です。それを焼却しないで発酵させてエネルギーに変えるバイオマス生ごみ施設が出来ると聞き、環境にも素晴らしいと思っていました。しかし、どうして急遽変更になったのでしょうか。生活に最も密接したごみ処理は行政の責任においてやっていただきたいと思います。燃やすことによる大気汚染は孫の健康にも心配です。バイオマス生ごみ処理施設を建設し、大町で焼却するごみの量を極力減らしてください。再生可能なエネルギーとしてバイオマス生ごみ処理施設の建設を切に願います。</p> <p>・ごみ問題の解決は、現在の私達の生活を快適にするだけでなく、将来の子供達により良い環境を残していくことだと思います。バイオマスによる生ごみ処理計画は画期的な計画で、現在の焼却炉によるものは環境上問題があると思います。バイオマスでも異物の混入など様々な問題も予想されますが、事前の分別徹底等、考えられる方法を駆使して、安全で地球にやさしい生ごみ処理を実現していただきたいと思います。</p> <p>・市民は分別に自覚的に協力し、全国で1,2位となる分別を行ってきました。さらに資源化を進めるための生ごみ資源化施設の建設を推進することを議会で提案・賛成を得ているのは市民の意見です。しかし、市はこの結果を無視してさらに市民や事業者に努力を求めています、このような経過の中で行政計画にすることは納得できません。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きい、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p> <p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
--	---	--

	<p>・今泉焼却施設を止めるということは何年も前からの約束です。それに替わる案としてバイオマス施設案がでていいるのです。市民に頼らず、市長が高所からの判断をすべきです。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p>
	<p>・バイオ処理は国でも進めていることであり、市でも積極的に取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
	<p>・今までの経緯、現段階としては生ごみ資源化施設を作るべきだと思います。</p>	
	<p>・折角ごみ処理に対して意識の高い住民から、その勝ち得た能力を消してしまうのはもったいないことです。今こそバイオマスエネルギーへの道を取らしたらどうでしょうか。</p>	
	<p>・今泉の老朽した焼却炉を使い続けるのも危険なので、資源化施設を作って一歩進んだゴミ行政をしてください。</p>	
	<p>・3・11以降日本のエネルギー政策が一変する事態となりましたが、バイオマス構想を進めてきた鎌倉市はどうして見直す必要があったのでしょうか。設備はシンプルで生ごみと汚泥がエネルギーになるバイオマス構想をすすめてほしいと切に願います。</p>	
	<p>・「生ごみ施設は検討した」と記述されていますが、その評価について記載がなく「調査研究を進める」という結論は問題です。バイオマスエネルギー回収施設の生活環境調査の報告も載せず、見直しの根拠が明確になっていません。</p>	
	<p>・生ごみ資源化施設の建設は市民の大勢は理解・指示していると認識しています。市民の意識の趨勢は市議会に端的に反映されていると考えています。 「生ごみ焼却」「生ごみ資源化」とともにリスクがあり、経済性の比較では生ごみ焼却方式が優れているとされていますが、環境負荷が大きいことを勘案すれば「生ごみ資源化」の否定即却下は理解されがたいため、市議会の賛同が得られないのだと思います。市長の方針強硬の構えは、市議会の不同意の深化、市民の不信感を醸成しています。市民の代表である市議会との協議に全力を挙げ、行政・議会・市民の認識の共有をはかるよう要望します。</p>	
	<p>・一般的な焼却処理施設に比して建設費も維持費も割安で全国でも普及が進んでいるバイオマス処理施設建設の方針を、「バイオマスエネルギー回収施設整備事業の積極的推進を求める」市議会決議に反していかなる理由で早々と断念したのか、市長は市民に納得の行く説明をしてください。</p>	
	<p>・今泉クリーンセンターをなくし、各個人（事業所等）にごみ処理をさせ、市は新たな施設をつくるわけではなく、いずれは市民にごみ有料化を押し付けることはとんでもないことです。若くてもさすが立派な市長と思われるよう市議会を尊重し、市民を大事にする民主的な市政を行ってください。</p>	

<p>・今泉焼却炉を止める、生ごみ処理により発電が可能になるという計画に大いに期待をしていたので、裏切られた気持ちです。</p> <p>・同規模施設がないからバイオマス方式を中止するのは発展性のない消極的な考えです。新しい技術を開発して積極的に進めるべきです。</p> <p>・同規模施設がないからバイオマス方式を中止するのは発展性のない消極的な考えです。新しい技術を開発して積極的に進めるべきです。</p> <p>・3月11日の原発の大惨事、浜岡原発停止となり新たなエネルギー発電に向けた再構築の時代です。ごみ処理に関してもこの流れの中でバイオマス実現に向けて踏み出ししていいのではないのでしょうか。私たちの出したごみの処理による熱を再利用し、生活の中に還元するこの新エネルギーシステムのバイオマスの取り組みをお願いします。</p> <p>・広域連携ができないのであれば自区内処理で資源化することが基本です。施設を作り、事業者の生ごみもそこで処理すべきです。</p> <p>・この素案が長いだけで何をいわんとしているのか分かりません。何故生ごみ資源化施設を作らないのか道筋が分かりません。</p> <p>・山崎に新しい焼却炉を設営するに予算が立てられないということですが、それで計画を廃案するのではなく、向こう何年かの後には建設し、予定通り今泉の焼却炉は廃止にするという具体的な案を示してほしいです。予算がないということを錦の御旗にせず、工夫して何年か積立てるとする方法もあると思います。</p> <p>・永年ごみ問題で苦勞してきた市職員が実情を十分に承知していると信じていますので、素案の様な計画ではなく、専門家として理性ある判断をお願いします。</p> <p>・バイオ賛成20人反対7人とのこと。議会民主主義を守って下さい。独裁市長では困ります。</p>	<p>山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設については、国内の都市部には同規模の施設は前例がなく、財政的な負担も大きいため、施設を整備しないで、燃やすごみを減量する方策で実施していきます。ただし、今後も、ごみのメタンガス発酵処理や堆肥化についても、新たな技術や知見についての情報収集や研究を進めていきます。</p> <p>また、素案の削減数値については、アンケート調査や実態調査などを基に算出したものです。算出根拠についてはごみ処理基本計画及び同データ編に示します。具体的な取組については毎年公表するアクションプログラムに示していきます。</p>
<p>・ごみ発生抑制、減量・資源化に積極的に取り組むことに異存はありませんが、燃やすごみがここ何年も4万トンあたりで推移しているのをみると目標通りに劇的に減らせるとは思えません。減量だけにごみ処理を頼ることに限界があると思います。山崎のバイオ処理施設計画は廃案にするのではなく、検討を続けることが望ましく、電力不足が懸念される今、再生可能なエネルギーを生み出していくことも各自治体の責任だと思えます。</p> <p>・3年を経て達成に疑問ができれば山崎の生ごみ処理施設を再検討すべきです。</p> <p>・これまで推進してきた、山崎バイオマスエネルギー回収施設整備も今後の検討課題の一つとして残すべきではないでしょうか。</p> <p>・ごみの削減、分別に協力、努力していますが、これ以上は難しいです。今泉クリーンセンター停止後は新たな施設を建設せざるを得ないのではないのでしょうか。</p> <p>・この素案はこれまで推進しようとしていたバイオマス事業についてほとんど意欲が感じられませんが、家庭ベースの電力を消費する「電動ごみ処理機」の普及には</p>	<p>福島第一原発事故を契機に、国のエネルギー政策は、これまでの原子力発電を主体としたエネルギー政策から、太陽光をはじめとする再生可能なエネルギーを基本とした計画へと転換していくことが想定されていますが、このような中であって、生ごみ等を利用したバイオマスエネルギーについても、実用化に向けさらに研究が進められていくものと考えております。今後も国や県の動向、他市での取組などを注視し、バイオマスエネルギーなど再生可能エネルギーの活用に向けた研究を続けていきたいと考えています。</p>

	<p>力を入れています。電力を極力セーブしなければ国家的にも立ち行かなくなる日本のエネルギー事情の将来を考えれば、鎌倉市としても今後電動式ごみ処理機の導入は極力抑え、再生可能なエネルギーを生むバイオマス事業の促進にこそ力を入れるのが、賢明な市長並びに市当局の取るべき施策ではないでしょうか。</p> <p>・バイオマス事業を効率的かつ安定的に実施するためには、既存のバイオ技術レベルを飛躍的に高められる「最先端バイオ技術」を実用化にまで育て上げるのが早道です。このバイオマスエネルギー分野への抜本的な研究開発を長期的に見て最重要の課題と位置づけ(メタン発酵以外にも検討に値するバイオエネルギー生産法は多種あります)、鎌倉市は全国に先駆けてその姿勢を打ち出す好機です。この分野で活躍している日本の最有力学会は「日本農芸化学会」であるので、この学会の支援や指導を直接間接に受けることを強く推薦します。</p> <p>・生ごみを原料としたバイオガスの発生・発電の設備計画については将来に向けて研究を続けるべきだと思います。県の新知事は新エネルギー開発に取り組みと宣言しているので県の協力・指導もえられるのではないのでしょうか。</p> <p>・ごみもこれから先のことを考えて、焼却から別の方法で見直してほしいと思います。</p> <p>・素案は実績、現況、将来推計等細かく練られ纏められていますが、バイオマス関係について触れられていません。</p>	<p>福島第一原発事故を契機に、国のエネルギー政策は、これまでの原子力発電を主体としたエネルギー政策から、太陽光をはじめとする再生可能なエネルギーを基本とした計画へと転換していくことが想定されていますが、このような中において、生ごみ等を利用したバイオマスエネルギーについても、実用化に向けさらに研究が進められていくものと考えております。今後も国や県の動向、他市での取組などを注視し、バイオマスエネルギーなど再生可能エネルギーの活用に向けた研究を続けていきたいと考えています。</p>
--	---	---